



2021年度 第2四半期決算について

2021年11月15日

古河電池株式会社

代表取締役社長 小野 眞一

Contents

01 21年度 第2四半期決算概要

02 21年度 業績予想

03 トピックス

01

21年度 第2四半期決算概要

21年度 第2四半期決算 事業環境（6ヶ月）

日本

- 鉛価格が高く推移（20年度上期 25.2万円/t⇒ 21年度上期 30.5万円/t）
- 4月から国内新車生産は新型コロナウイルスから回復基調だったが、感染症再拡大と半導体不足の影響により9月は大幅減産。取替需要は堅調に推移。
- 2021年4～9月 四輪自動車生産台数： 356万8274台（前年同期比10.5%増）
- 産業分野は、新型コロナウイルスの影響から市場が一部回復。

海外

連結期間は2021年1～6月。
新型コロナウイルス影響継続・半導体不足の影響あり

タイ

- 1～3月は、新型コロナウイルスの影響からの一時的な回復により新車メーカー生産増加
- 4月以降、新型コロナウイルス感染再拡大と半導体不足により新車メーカーで操業停止の影響を受けたが、取替需要は堅調に推移。
- 2021年1～6月 四輪自動車生産台数： 84万4,601台（前年同期比39%増）

インド ネシア

- 1～2月はコロナ影響により厳しい経済状況であったが、3月以降、新車販売減税措置により回復。
- 2021年1～6月 四輪自動車生産台数： 51万4,277台（前年同期比39%増）

21年度 第2四半期連結業績ハイライト（6ヶ月）

連結業績

- 自動車事業において、海外では前年からの反動により新車・市販とも数量増加、日本国内も取替需要は堅調に推移。産業事業も、新型コロナウイルスの影響から市場が一部回復したことにより、**増収**。損益面では、主要原材料である鉛の価格が高く推移したため、**減益**
- 収益認識に関する会計基準の適用により、従来の方法と比較して売上・利益ともに減少

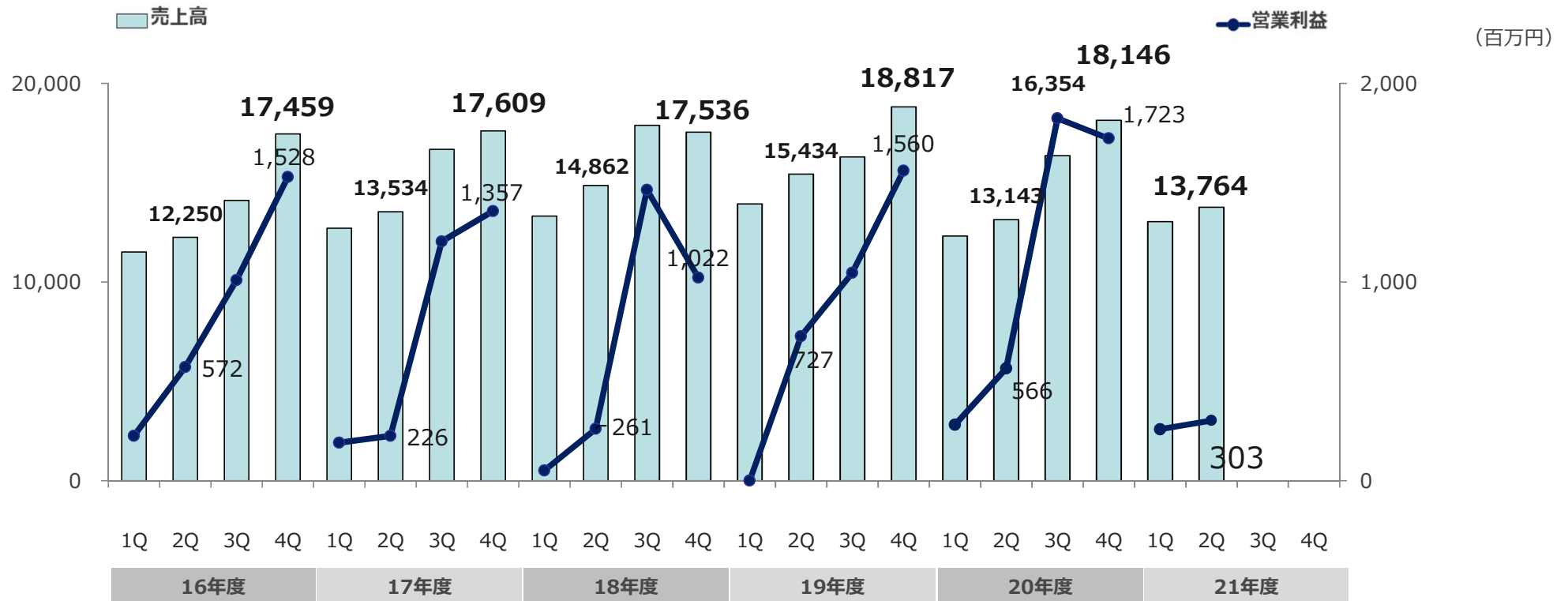
売上高	26,799百万円	前年同期比	5.3%（1,342百万円）増
営業利益	562百万円	前年同期比	33.8%（287百万円）減

(単位：百万円)	21年度 第2四半期(累計)			
	実績	対売上	前年同期差 (増減)	前年同期比
売上高	26,799	100.0%	+1,342	+5.3%
営業利益	562	2.1%	-287	-33.8%
経常利益	645	2.4%	-221	-25.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	563	2.1%	-111	-16.6%
海外売上高	9,667	36.1%	+520	+5.7%

20年度 第2四半期(累計)	
実績	対売上
25,457	100.0%
849	3.3%
866	3.4%
674	2.6%
9,147	35.9%

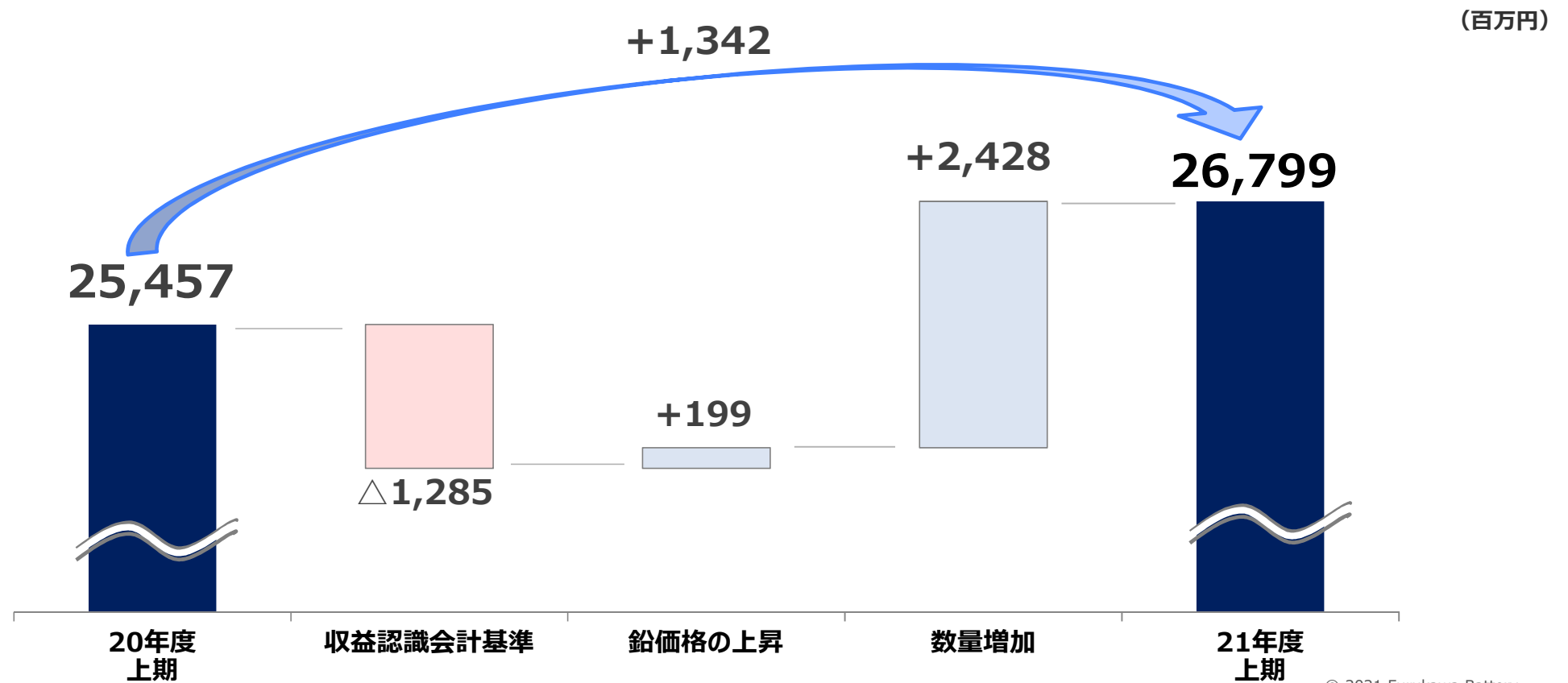
売上高・営業利益の推移_四半期

■ 国内の新車生産台数は新型コロナウイルス影響と半導体不足の影響を受けたが、海外新車は回復基調、取替需要は国内外とも堅調に推移。産業は、新型コロナウイルスの影響から市場が一部回復傾向。



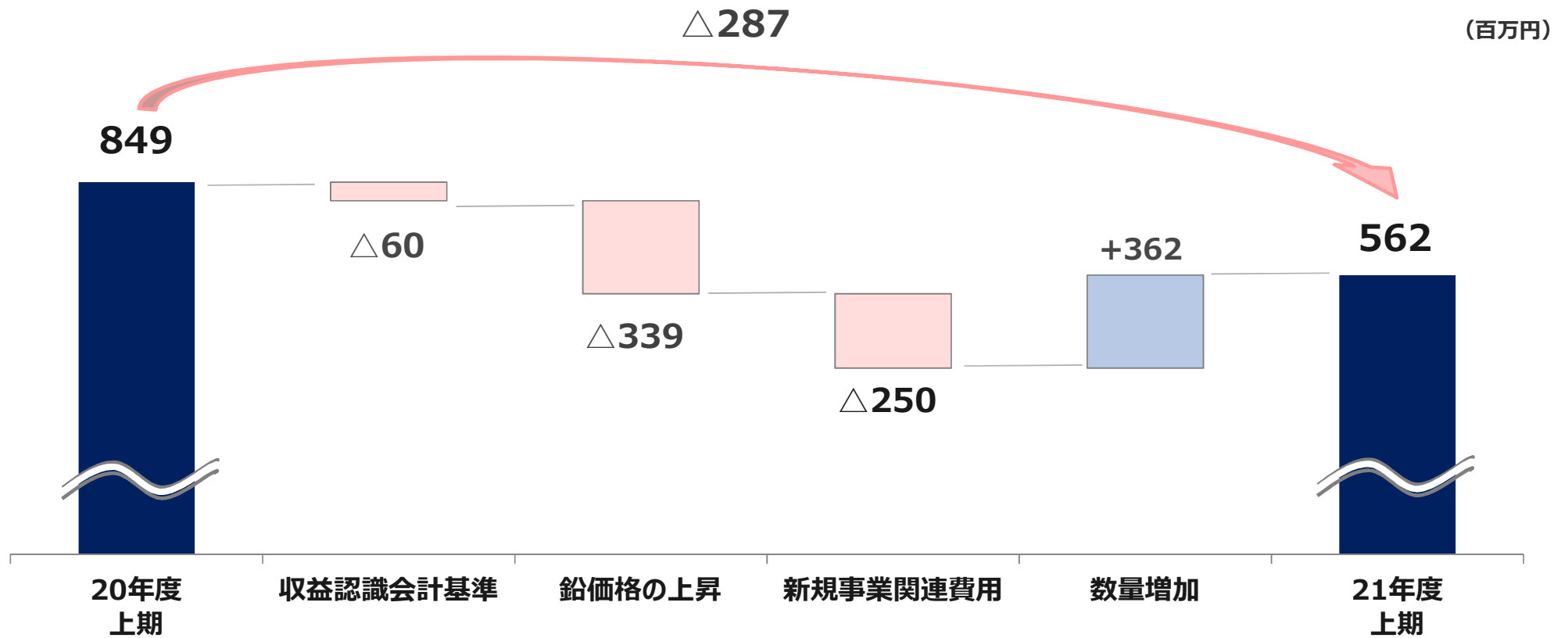
売上高 増減分析

- 収益認識会計基準の適用により12億円の減収となったが、自動車事業において、取替需要が堅調に推移したことや産業事業において市場が一部回復したことにより**増収**。



営業利益 増減分析

■ 鉛価格の上昇・収益認識会計基準の適用・新規事業関連費用により**減益**



自動車セグメント 決算概況（6ヶ月）

自動車 セグメント

国内新車メーカー向けは新型コロナウイルスの影響と半導体不足の影響を受け数量減少、海外新車向けは前年からの反動もあり数量増加、取替需要が国内・海外とも堅調に推移し、**増収**。主要原材料の鉛の価格上昇の影響により、**減益**。

売上高： **19,918**百万円

前年同期比

4.6%（879百万円）増

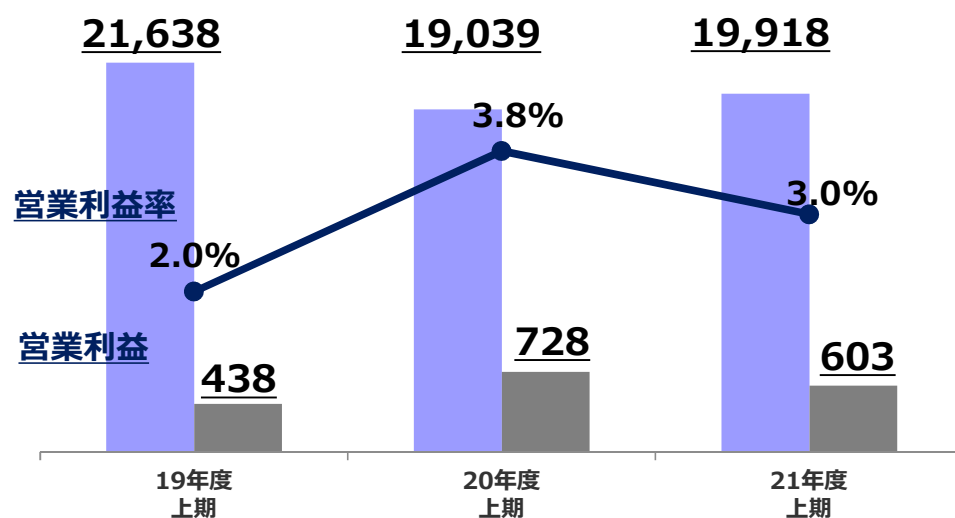
営業利益： **603**百万円

前年同期比

17.2%（125百万円）減

売上高

（百万円）



● 日本：

新車向けは新型コロナウイルス・半導体不足の影響を受け前年比減少だが、取替需要は堅調に推移。鉛価格上昇の影響により減益

● インドネシアFIBM：

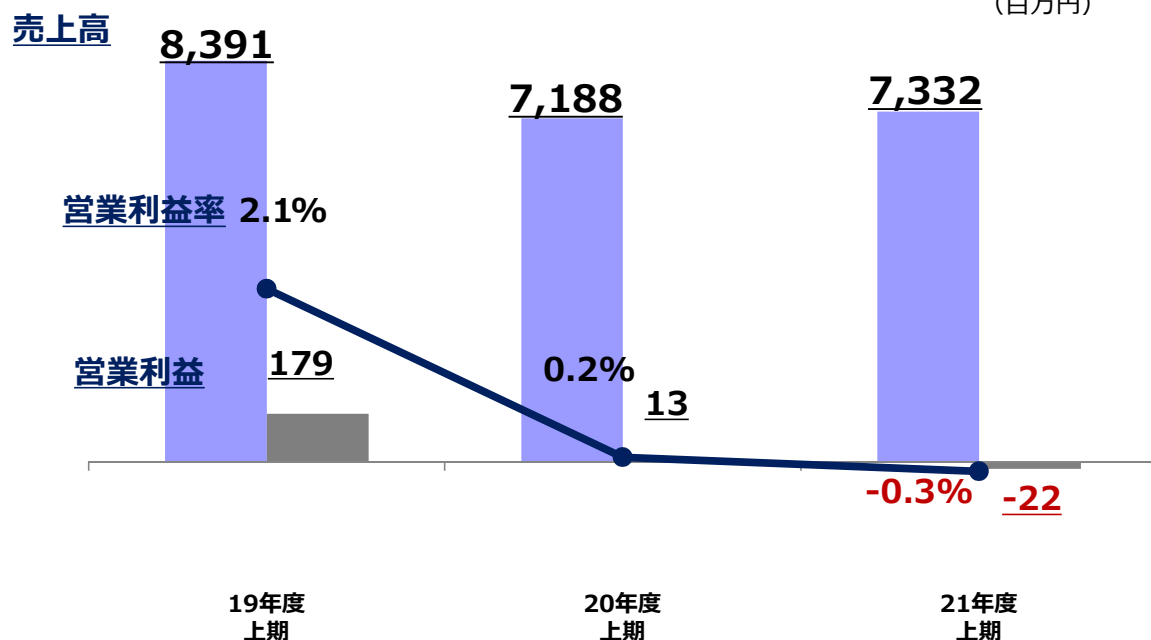
国内拡販により活動により増収。鉛価格上昇の影響により減益

● タイSFC：

新車向けは前年からの反動もあり数量増加。取替需要が堅調に推移し、増収増益

産業セグメント 決算概況（6ヶ月）

産業 セグメント	新型コロナウイルスの影響から民間企業等の設備投資が一部回復したことにより、増収。鉛価格上昇により減益		
	売上高：	7,332百万円	前年同期比 2.0%（144百万円）増
	営業利益：	-22百万円	前年同期比 -269.2%（35百万円）減



- データセンター市場については、コロナ以前からの拡大基調が継続
- 民間企業等の設備投資が一部回復
- 中国における鉄道向けが減速し、減少

国内データセンター建設投資予測 *

2020：1,642億円（前年比64.1%増）
 2021：1,712億円（前年比4.3%増の見込み）
 2021～25：2021年は20年の反動により小規模な増加になった。しかし、22年以降も増加傾向が継続し、2025年には投資規模が3000億円に近づく予測。
 ※クラウドサービス向け大規模DCが関東地方・近畿地方建設

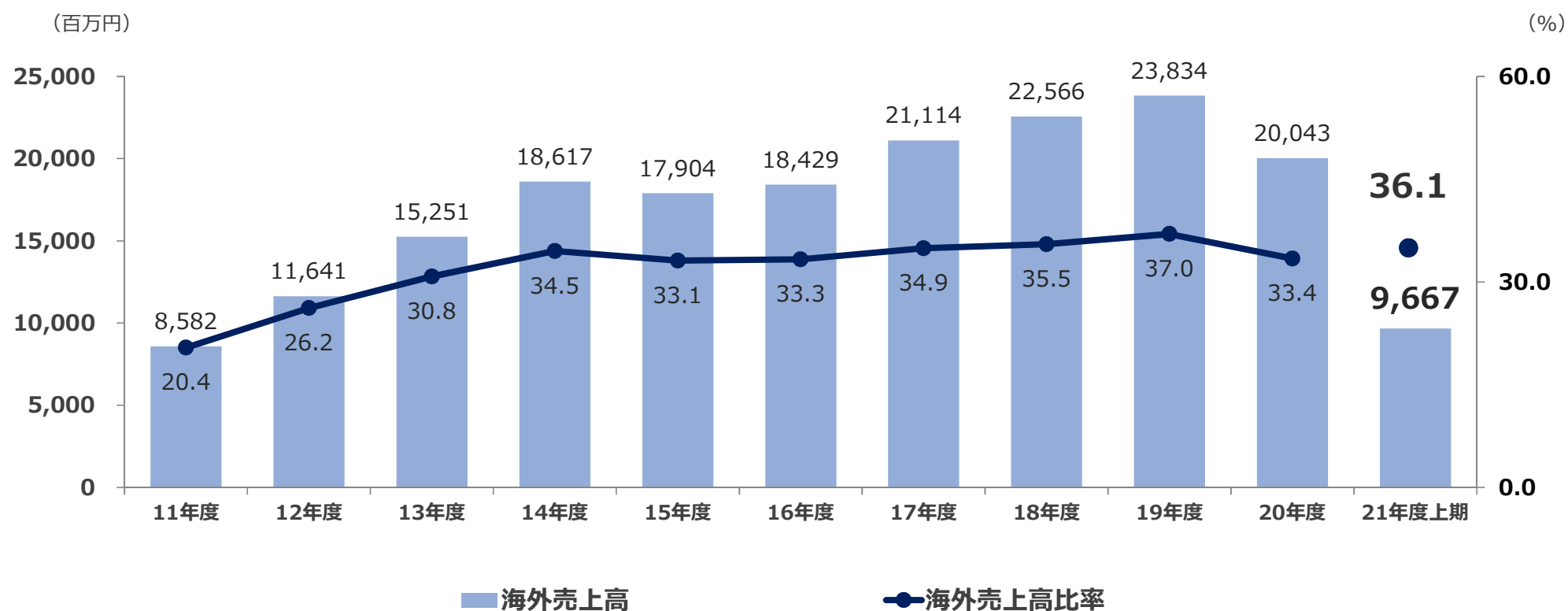
新型コロナウイルス影響で建設工事が中断されることもあったが、2020年5月からは再開。コロナ危機の影響によりクラウドサービスの需要拡大に拍車がかかり、DC建設投資が加速。

* IDC Japan, 2021.7.7リリース「国内データセンター建設投資予測を発表」

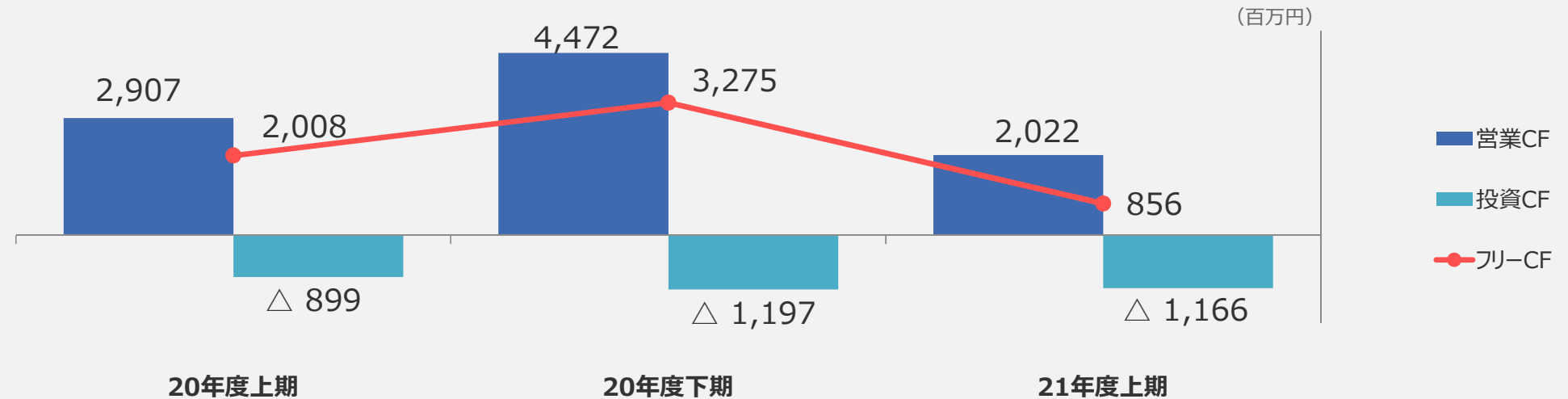
© 2021 Furukawa Battery

海外売上高

■ 21年度上期は新車メーカーの前年からの反動と取替需要が堅調に推移したことにより、海外売上高は増加（前年比106%）したものの、比率は前年上期（35.9%）並み



連結キャッシュフローの状況



営業CF・投資CF

- 営業CFの減少 (前年同期比 885の減)
 - ・棚卸資産の増加 (同1,519の減)
- 投資CFの増加 (前年同期比 266の増)
 - ・有形固定資産の取得による支出の増加 (同116の増)
 - ・無形固定資産の取得による支出の増加 (同154の増)

ポイント

- 棚卸資産が増加したことに加え、設備投資による有形固定資産と無形固定資産の支出増により、フリーキャッシュフローは前年同期比-1,152百万円

連結貸借対照表（2021.9末時点）

- 受取手形及び売掛金等は32億円減少。下期に向けて製品在庫を積み増したことにより、たな卸資産が23億円増加。長期借入金減少により△7億円。利益剰余金は配当増の影響により△2.5億円。

				(百万円)			
資産	21.3 末	21.9 末	増減額	負債・純資産	21.3 末	21.9 末	増減額
流動資産	29,023	27,627	△1,396	流動負債	14,688	14,101	△587
現金及び預金等	8,775	8,162	△613	支払手形及び買掛金等	6,441	6,449	8
受取手形及び売掛金等	13,129	9,880	△3,249	短期借入金	3,410	3,513	103
棚卸資産	6,435	8,740	+2,305	固定負債	11,609	10,931	△678
固定資産	28,662	28,794	+132	長期借入金	2,668	1,967	△701
有形固定資産	23,123	22,886	△237	退職給付に係る負債	7,036	7,067	31
無形固定資産	331	490	+159	純資産	31,388	31,389	△1
投資その他の資産等	5,207	5,416	+209	利益剰余金	26,036	25,782	△254
資産合計	57,686	56,421	△1,265	負債純資産合計	57,686	56,421	△1,265

02 21年度 業績予想

21年度 業績予想の前提－2021年5月公表値から変更なし

- 新型コロナウイルス感染症の影響については、各事業・拠点によって度合いが異なる見込み
- 足下において、5月時点よりさらに鉛価格が上昇しており、利益面ではマイナス要素
- 新規事業（バイポーラ・LiB）および新基幹システム構築について、それぞれ費用が発生する見込み

自動車 (国内)	● 20年度からの反動もあり、新車向けは年間では数量増の見込み ● 取替需要は前年度並みの計画 ● 鉛価格の推移を注視
自動車 (タイ)	● 新車生産台数や輸出向けの回復、取替需要堅調をふまえ、前年比数量増を見込む ● 新型コロナウイルス感染再拡大については要注視
自動車 (インドネシア)	● 新型コロナウイルス感染拡大にともなう中間所得層の収入減により、消費減退・市況悪化が長期化するリスクあり ● ただし、経営改善により新型コロナにともなうマイナス影響はカバーできる想定
産業	● 民間企業の設備投資の冷え込みなど一部見通しは不透明 ● 大規模データセンターなどインフラ系の一部については、需要に大きな落ち込みなし

21年度 業績予想_2021年5月公表値から変更なし

- 半導体不足の影響による新車メーカー向けの減産が見込まれるが、取替需要が堅調に推移しており、通期公表値から変更はなし。
- 市場が活発化している一部領域については対応強化し、マイナス影響の相殺を図る

(百万円)

	20年度 実績			21年度 予想			増減額 (b-a)	増減率
	上期	下期	通期(a)	上期(実績)	下期	通期(b)		
売上高	25,457	34,501	59,958	26,779	35,721	62,500	+2,541	+4.2%
営業利益	849	3,548	4,397	562	3,438	4,000	△397	△9.0%
経常利益	866	3,614	4,480	645	3,355	4,000	△480	△10.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	674	2,940	3,614	563	2,887	3,450	△164	△4.6%
海外売上高比率	35.9%	31.6%	33.4%	36.1%	—	—	—	—

為替レート

・2021年3月期（期末） 1バーツ=3.44円 100インドネシアルピア=0.74円
 ・2022年3月期（前提） 1バーツ=3.40円 100インドネシアルピア=0.72円

鉛建値

・2021年3月期（平均） 260.9千円/t
 ・2022年3月期（前提） 265.0千円/t

© 2021 Furukawa Battery

配当予想_2021年5月公表値から変更なし

■ 21年度の配当金は、20年度と同じ1株当たり**22円**を維持。配当性向は**1ポイント**増加。

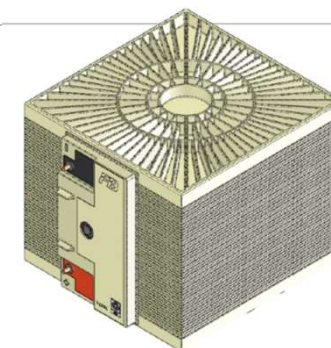
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度 (予想)
ROE (%)	12.2	9.7	9.4	8.7	12.8	—
1株当たり配当金 (円)	9.00	10.00	11.00	13.00	22.00	22.00
配当金総額 (百万円)	295	327	360	426	721	721
配当性向 (%)	12.4	15.3	15.9	19.0	19.9	20.9

03 トピックス

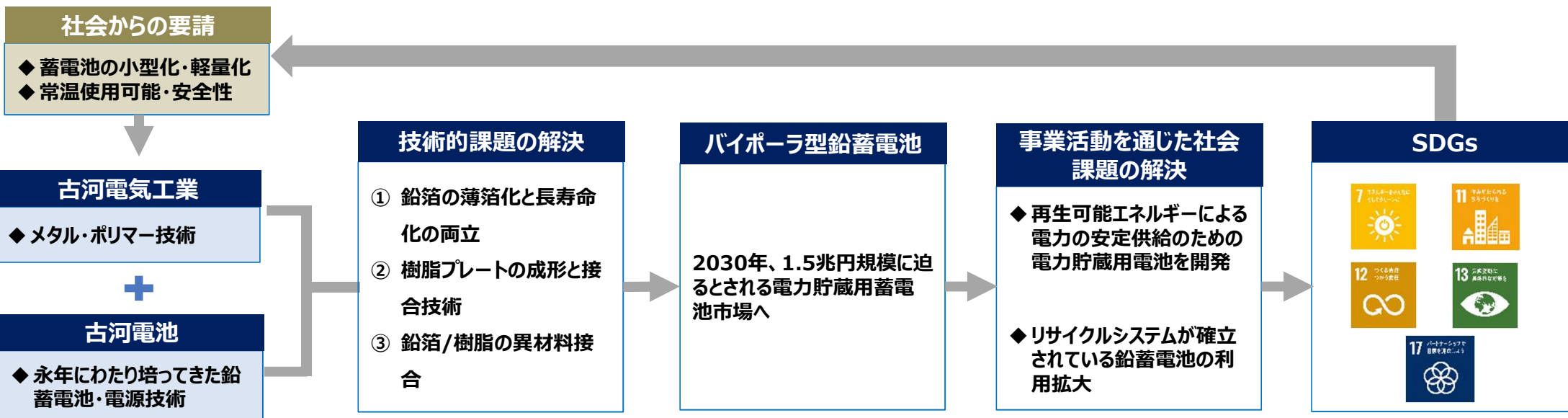
トピックス – バイポーラ型鉛蓄電池

	2020年6月9日リリース時点	本日時点
サンプル出荷	2021年度中	2022年3月（予定通り）
製品出荷	2022年度	2022年度（予定通り）

- ・ 現在古河電池と古河電工はバイポーラ型鉛蓄電池の開発に目途をつけ、数社のお客様に対して2022年3月にサンプルを出荷いたします
- ・ 再生可能エネルギーと蓄電池の導入に積極的な自治体とも連携を図る予定です
- ・ 本格製品出荷に向けた設備投資の準備を行っています



サンプル
モデル図



トピックス – 市場区分の見直し・リチウムイオン電池事業

市場区分の見直し

東京証券取引所の新市場区分
見直しについて、「プライム市場」を
選択し申請を実施

現在の市場区分

市場第一部



申請

新市場区分

プライム市場

リチウムイオン電池

2021年4月1日にマクセル株式会社より積層ラミ
ネート型リチウムイオン電池事業を承継完了

今後の取り組み

- ・ リチウムイオン電池の技術展開、産業用領域の用途拡大の推進
- ・ 両社が培ってきた技術力、研究開発力の融合による競争力強化



富山工場



121L0978G8D1-1 12Sラミネート型



LCG12-M001J-2
12Sラミネート型 専用充電器

トピックス – ESG/SDGsの取り組み

地域社会と連携したSDGs推進

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて
地域社会と連携した取組を強化

21年度、「内閣府」・「神奈川県」・「横浜市」・「栃木
県」のSDGs推進制度に登録、認証取得を実施

地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

内閣府「地方創生SDGs
官民連携プラットフォーム」に登録



とちぎSDGs推進企業 登録マーク

「とちぎSDGs推進企業」に登録



KANAGAWA SDGs PARTNER

神奈川県 横浜市長官邸 環境・まちづくり推進部



「かながわSDGsパートナー」に登録

横浜市SDGs認証制度

Y-SDGs
- superior -



（横浜市SDGs認証制度／私たち）は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

「横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”」
の認証取得

健康経営への取り組み

2020年11月に「古河電池 健康経営宣言」を制定

健康経営推進状況 今市事業所（栃木県日光市）

- ・「とちぎ健康経営事業所制度」で認証を取得
- ・「健康長寿とちぎづくり表彰」で最優秀賞を受賞

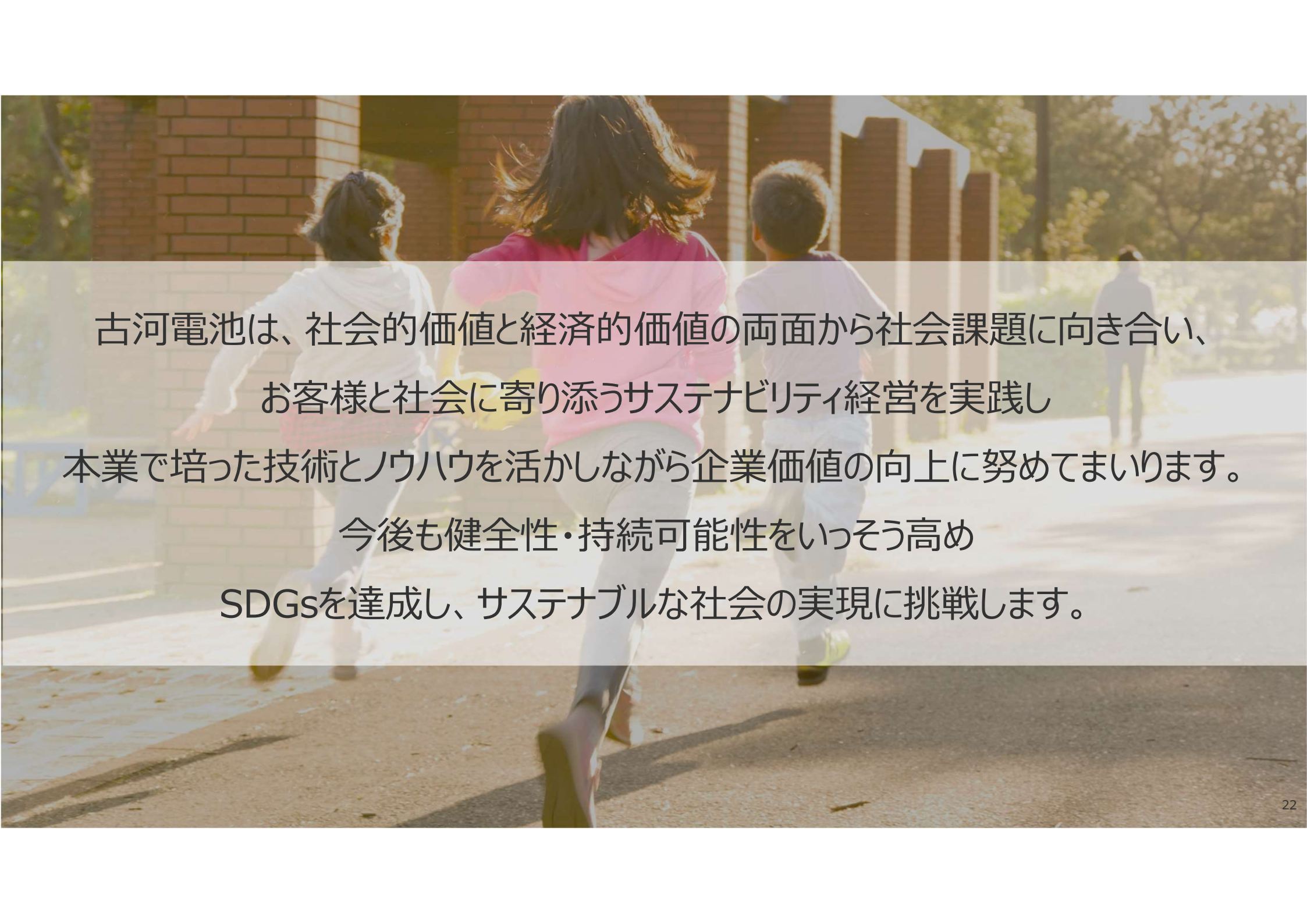


とちぎ健康経営事業所

とちぎ健康経営事業所認定



「2021年度健康長寿とちぎづくり表彰」において
最優秀賞を受賞

A photograph of three children running away from the camera on a paved path. The child in the center is wearing a pink shirt and grey pants, the child on the left is wearing a white shirt and grey pants, and the child on the right is wearing a white shirt and grey pants. They are running towards a brick building in the background. The image has a warm, golden-hour lighting.

古河電池は、社会的価値と経済的価値の両面から社会課題に向き合い、
お客様と社会に寄り添うサステナビリティ経営を実践し
本業で培った技術とノウハウを活かしながら企業価値の向上に努めてまいります。
今後も健全性・持続可能性をいっそう高め
SDGsを達成し、サステナブルな社会の実現に挑戦します。

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・為替相場の変動による影響
- ・主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・海外における政治的および社会的リスク
- ・取引先の業績悪化等
- ・大規模災害（地震や風水害などの自然災害、伝染病・感染症の流行）等の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

（注）当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。
年度表記について、19年度は2020年3月期、20年度は2021年3月期（以下同様）を表しています。